



「名古屋いのちの電話」養成講座



2011年公開講座 6シリーズ

「いのちの電話」知ってますか

① 「ボランティア精神の原点」 梶原 壽

2011年9月24日(土) 午後2時～4時 於 東桜会館

講師紹介

梶原壽(ひさし)氏 1932年山梨県生まれ。
名古屋学院大学学長、理事長を歴任。現在同大学名誉教授。同時に日本、M.L.キング研究会幹事。社会法人「愛知いのちの電話協会」評議員を経、現在 養成委員メンバー。2010年 瑞宝中綬章受章者。



著訳書:「マーティン=L=キング」、「解放の神学」(共に清水書院)、「マーティン・ルーサー・キング自伝」(日本基督教団出版局)、「われらの悲しみを平和への一步に—9.11 犠牲者家族の記録」(岩波書店)

今後の予定

いずれも午後2時より 東桜会館にて

- ② 2011年10月29日(土)
講師: 山本将信(日本基督教団牧師)
- ③ 2011年11月13日(日)
講師: 鬼頭義宏(愛知県警察本部 警視)
- ④ 2012年 1月28日(土)
- ⑤ 2012年 2月11日(土)
- ⑥ 2012年 3月18日(日)



[21期養成講座]は2012年4月より2013年2月までみこころセンターにて開講
詳しい要項のお問い合わせは

〒461-8691 名古屋市東郵便局 私書箱257号

名古屋いのちの電話 事務局 電話:(052)508-8381

ボランティア精神の原点

梶原 壽

私がボランティアという言葉に最初に出会ったのは、今から62年前の高校2年生の時、山梨県立都留高等学校の図書館で毎週日曜日の午後、米国のテキサス州から来ていた一人の青年宣教師によって持たれていたバイブル・クラスに出席したところ、聖書研究会終了後の知的ゲームの中で、“Who is the first volunteer?” とか “Who volunteers first?” (最初に挑戦してみる人はどなたですか) と回答を促した言葉を聞いた時でした。

ボランティア (volunteer) とはラテン語の voluntas (自由意思、喜んでする覚悟、熱意) に由来する英語で、最近では日本でも日常語の一つとしてかなり定着した言葉になっています。それは特に困窮の中にいる人に、自分の方から自発的に熱意をもって「寄り添おう」とすることを意味する言葉です。今全世界に広まっている《いのちの電話》をささえているのは、この精神です。私の講演は以下の順序で進めさせていただきます。

- (1) <いのちの電話>の創設者チャド・バラード氏の<サマリタンズ>創設の物語
- (2) <善いサマリア人の物語>についての M・L・キング牧師の解釈
- (3) 東日本大震災と<アメージング・グレース>の歌成立の物語
- (4) <押しつけの文化>と闘ったアメリカ黒人の<聴き合い>の文化から学んだこと

<むすび> 去る3月28日から4月9日まで私どもの<いのちの電話>も、被災4県限定受けの全国<震災フリーダイヤル>に参加しましたが、その中である利用者は周囲の被災者の苦難のことを思って自分の「つらい」気持ちをずーっと我慢してきましたが、今ようやくその気持ちを聴いていただいて少し楽になりました。またこらえきれなくなったらこの電話にかけさせてくださいと、言葉を結んでいたそうです。このような切実な訴えに耳を傾けるボランティアには是非一人でも多くの方々が応募していただきたいと思います。